

調査団体名	名古屋市水辺研究会	団体代表者名	國村恵子
活動地域	名古屋市、愛知県	団体URL	http://www15.ocn.ne.jp/~mizube/
<p><活動内容></p> <p>1995年に設立された名古屋市水辺研究会は、河川、溪流、ため池、湿地における絶滅の危機にある動植物の保護と、名古屋市を主に愛知県内の河川を対象にした環境教育や調査研究活動を行っている。特に庄内・土岐川流域、新川流域と矢田川、香流川、海上の森を中心に継続的な活動を実施し、15年近くの間蓄積された調査データも多い。名古屋市河川水辺の希少動植物調査を15年継続するほか、瀬戸市のオオサンショウウオについては國村代表が1990年より関わり、研究会として蛇ヶ洞川観察を1996年より実施。2001年度、砂防河川改修工事で代償措置として湧水を引き込む人工巣穴を提案し、工事区間のオオサンショウウオを保護するなど協力。4カ月間工事に立ち会う。</p> <p>会の目的は、学ぶ機会を提供するとともに、流域単位の自然生態系を調査、水辺環境の保全と改善に向けて適切な対策が図られるよう関係機関に働きかけることとしている。國村代表は、堀川等、多くの河川整備計画流域委員会委員、海上の森運営協議会委員などを務める。</p> <p>なお、調査等活動範囲は三重、岐阜、静岡等他県にまで及ぶ。</p>			
<p><連携している団体・専門家・自治体など></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国土交通省庄内河川事務所との自然学習シンポジウム開催協力。 ○愛知県環境部との国際博覧会会場周辺水辺環境調査事業の実施協力。 ○河川部局流域委員会での提言、あいち海上の森センター運営協議会への協力等多数。 ○小学校の総合学習、NPO、子ども会、公民館、保健所等が開催する水辺教室への協力(年間40件)。 			
<p><今までに行った調査・研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ○海上の森・香流川水辺ガイドマップ作成。 ○各河川リバーズスクールの開催(庄内川、矢田川、木曾川、長良川、津屋川等)。 ○「川に遊び川に学ぶ」(2000)、「里山に生きる」(2003)、「香流川」、「山崎川」、「白沢川」、「マメナシ観察手帳」等発行。 ○1996-2001蛇ヶ洞川オオサンショウウオ産卵箇所確定調査、ハッチョウトンボ生息湿地5年間モニタリング調査、2005愛知万博駐車場ダルマガエル生息地保全と復旧後モニタリング調査、ホトケドジョウ生息地保護事業など、行政との協働により保全活動を展開した。 			
<p><現在直面している課題></p> <p>行政との協働、連携活動を多く実施してきたが、これはあくまで保護・保全活動への協力である。その経験を踏まえると、行政側は各セクターでの調整が図られていない。協働の成果を保全に向けてきちんと体系的に発展させられないという問題がある。原因は担当者の異動と水辺生態系や生物多様性への本質的な知識が乏しいことなど。市民や市民団体が情報弱者である限り、具体的、建設的な提言や討議は困難である。また市民団体も、一部の権力者が支配し民主的でないなどスキルアップが望まれる。</p> <p>いずれにしても、形ばかりの協働から脱却する努力がほしい。</p>			
<p><今後どんな情報が必要か></p> <ul style="list-style-type: none"> ○汚水を河川に排出する企業の排出源水質データ。 ○水辺研究会が長年かけて調査した湧水地図、河川生物記録を行政に善意で提供すると、それを基にコンサルや悪質な専門家の仕事に利用されていることから、情報の共有化にもマナーやルールが必要であると考え。当方が善意でも、行政や地元は利益誘導、営利、実績を求める。 			
 <p>オオサンショウウオの人工巣穴の説明状況</p>			